

西日本インカレ（合同研究会）2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ) Kansai Daigaku	フリガナ) Keizai Gakubu	フリガナ) Yoshinaga Zeminaru
関西大学	経済学部	良永ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ) コメタ	フリガナ) フクモト マコ	5人	無
こめた	福本 真子		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）
指し棒

研究テーマ（発表タイトル）
森林と歩む未来～絶望の林業からの復活～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

私たちが、数ある環境問題のなかで森林というテーマを選んだ目的は、日本は森林大国であり、その森林からたくさんの恩恵を受けており、不可欠なものだと考えたからである。例えば、大気保全、水の浄化、災害防止などさまざまな面で森林と関わっている。その森林を支えているのは林業であることに注目し、そこには様々な問題があることを発見した。現在、林業は衰退の一途を辿っており「絶望の林業」とも呼ばれている。このまま林業が衰退していけば、森林の機能が低下していき、私たちが当たり前のように受けていた恩恵が享受できなくなる。そこで私たちは林業を復興させるために、林業における問題点を洗い出し、解決できることはないのかと研究を始めた。それを独自の提案を踏まえ、問題点を解決し、林業に希望を与えようと考えた。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

日本の林業が衰退した歴史的背景には、戦後の木材需要拡大による木材供給の不足があげられる。日本は戦時中大量の木材を伐採し、利用した。それにより日本の森林には利用できる木がない状態になっていた。終戦後、復興のためにさらに大量の木材が必要になったため、拡大造林政策により木を大量に植えることで対応しようとしたが、木の成長には時間がかかるため国内では深刻な木材不足が起こり、需要が高まっていっているにもかかわらず供給量が低下する事態に陥っていた。そこで政府は、木

材不足を解消するために 1955 年から徐々に木材輸入自由化を開始し、1964 年には木材輸入の完全自由化を開始した。木材輸入自由化により国内における木材製品製造業の出荷額は上昇し、供給不足は解消されたが、林業に対しては大きな弊害をもたらした。1955 年には 94.5%だった日本の木材自給率は 2017 年には 34%にまで落ち込んでしまったのだ。外国産の木材は乾燥していることや、太さが十分であるなど品質に長けているため、木材の供給先に外国を選ぶようになり、国産材の需要は低下してしまった。現在は、林業を行っても採算が合わなくなってしまったため、多くの人が林業を離れて行ってしまった。これらの背景から林業は衰退してしまったのだ。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

日本の林業者の大きな負担となっている間伐費用を全額補助することで間伐を促せば、日本の森林の現在の悪状が改善されると考え、現在 37 府県に導入されている森林環境税に着目した。

森林環境税で集められた税金は地域の森林保全に充てられているが、実際に森林を直接的に管理する林業者へのお金は少ない。

森林の恩恵は日本に住むすべての国民が受けているので、国民全員が森林環境税を支払うことは妥当であると考え、森林環境税を全国に導入することを提案する。全国導入することで増えた税収を、林業者の間伐費用を補助することに充てることによって林業者の間伐活動を促し、日本の森林を健やかな状態に保つことを目指す。具体的に、国民から森林環境税を全国一律 90 円、法人からは法人税の均等割額の 5%を森林環境税として徴収することとする。各都道府県で徴収された森林環境税を各地域にある林野庁監督下の森林管理署に回し、林業者のもとへと充てられる仕組みである。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

・森林ジャーナリスト田中敦夫さん（8月25日訪問）

日本で唯一の森林ジャーナリストである田中敦夫さんに直接お話を聞いてきた。

田中さんによると、国産材は林業の衰退により管理の手が及ばず、国産材の品質低下につながったという。これが国産材の需要低下を引き起こしている一因となっている。品質低下を改善するには適切な基準に則った管理をするべきだとおっしゃっていた。

・速水林業兼 FSC ジャパン副代表速水亨さん（8月20日訪問）

速水林業さんが管理している森林は、適切な間伐をおこなうことで良質な木材が多く生産でき、何百年先も生産性が滞ることなく持続可能な森林になったという。速水さんは国内の林業者への間伐にかかる費用の負担が多いため、十分な間伐を行うことができていないとおっしゃっていた。これが FSC 認証林が少ないと考えられる一因である。

6. 結果や今後の取り組み

今後、高額な間伐費用が補助できれば、FSC 認証林が増加し、品質のいい木材が増えることだろう。国産材の品質が良くなれば国産材の需要が増え、国内林業の発展に貢献できると考えている。

7. 参考文献

『日本林業を立て直す速水林業の挑戦』速水亨著（日本経済新聞出版社2012年8月）

『森林飽和国土の変貌を変える』太田猛彦著（NHK出版2012年7月）

『森林異変日本の林業にみらいはあるのか』田中淳夫著（平凡社2011年4月）

『日本林業はよみがえる』梶山恵司著（日本経済新聞出版社2011年1月）

『図解知識ゼロからの林業入門』関岡東生著（一般社団法人家の光協会 2017 年 5 月）

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に

変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず使用するツール名をご記入ください。企画シートにご記入が無い場合は、発表当日の使用はできません。あらかじめご了承ください。

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください↑